

会 議 録

| | | | | |
|---|--------|--|--------|------------------------|
| 令和6年度第2回 生活支援事業協議体 | 日 時 | 令和6年9月24日（火） 14時00分～16時00分 | 場 所 | 小金井市役所第二庁舎8階 801会議室 |
| 事務局 | | 小金井市福祉保健部介護福祉課 | | |
| 出席者 | 委員 | 高良委員長（法政大学） 藤原委員（社会福祉協議会） 出川委員（介護事業者連絡会） 鈴木委員（民生委員児童委員協議会） 濱名委員（地域貢献活動をする者） 村越委員（町会・自治会） 第2層コーディネーター 松村委員（小金井きた地域包括支援センター） 金子委員（小金井ひがし地域包括支援センター） 河合委員（小金井みなみ地域包括支援センター） 久野委員（小金井にし地域包括支援センター） | | |
| | 事務局 | 第1層コーディネーター 菊地原（小金井市介護福祉課） 大澤、磯端、田村、木津（介護福祉課） | | |
| 傍聴の可否 | | ◎可 ・ 一部不可 ・ 不可 | 傍聴者数 | 0人 |
| 傍聴不可・一部不可の場合の理由 | | | | |
| 1 開会 2 議 題 (1) 報告事項 ① 前回協議体からの進捗状況 ② 令和6年度第1回から第4回生活支援連絡会報告 ③ 生活支援コーディネーター活動報告（4月分～7月分） ④ 令和6年度各地域包括支援センター活動報告 (2) 検討事項 高齢者の社会参加促進に向けた取り組みについて 3 その他 次回協議体の開催予定 4 閉会 | | | | |
| 1 開会 協議体の開催にあたり資料の確認と、会議録作成にあたり全文を記録するものの、会議録の公表に当たっては、市民への分かりやすさを考慮し、発言者の発言内容ごとの要点記録とする旨を説明した。 みなみ包括支援センターの人事異動に伴い委員変更があったため、その案内と新たに着任した委員から挨拶等を行う。 | | | | |
| 2 議 題 (1) 報告事項 ① 前回協議体からの進捗状況 | | | | |

- ② 令和6年度第1回から第4回生活支援連絡会報告
 - ③ 生活支援コーディネーター活動報告（4月分～7月分）
 - ④ 令和6年度各地域包括支援センター活動報告
- （1）報告事項の①から③までの概要を事務局より説明。

（高良委員長）

④令和6年度の各地域包括支援センター活動報告について、それぞれ資料3の順番に説明をいただきたい。きた包括の松村委員から願います。

（松村委員）

今年度上半期の取り組みについて、特徴的なもの、新しいもの、2点の報告させていただきます。

これまでも地域活動の担い手不足という課題があったが、この春は翁味会、睦会という2つのグループから今後の活動の周知や広報についての相談を受けた。いずれも男性を中心にしたグループで、コロナ後、新しい参加者が得られず、メンバーの高齢化が進んでいて、このままでは先々の活動の継続が難しいという相談内容だった。

同じ時期にイベントで御一緒したシルバー人材センターの理事の方からも、シルバー人材センターの新規入会者の平均年齢が70歳を超えているなど、スタッフの高齢化が進み、これまで受けてきた仕事が受けられなくなってきたという話も伺った。

定年が延びていて、完全に仕事をリタイアした方だけでは地域活動を支え切れなくなっていることを実感している。50代、60代などそろそろ第2の人生を考えようかという層をいかに取り込んでいくか、まだ包括を知らない層といかに出会っていくのかを、同じ課題に関心のある地域の方々と、周知の仕方や活動の幅を広げていく方法について、一緒に考えていきたいと思う。

睦会の代表の方からは、周知について紙媒体には限界があるので、ウェブ等からワード検索でたとえば市のHPに掲載している「応援ブック」にたどり着けるなど、簡単に必要な情報を入手できるような仕組みに改善していくべきだという提案をいただいた。早速、日頃から地域の協議会で御一緒している市議の方から担当課に伝えていただくように依頼している。

また翁味会は男性のみの料理サークルだが、こちらは今後シニア男性以外の参加者の受入れについて、障害分野との連携を検討し始めたところで、うまくつながればと期待している。

もう一つ、今年度特に力を入れている防災について報告させていただく。今月14日桜町自治会自主防災会との共催で、きた包括防災講座を開催した。講師には桜町在住の防災士で、東日本大震災の際に仙台で被災し、2人のお子さんと避難所生活を体験された主婦の方、そして桜町自治会で自主防災会を立ち上げた現会長をお招きした。

この講座の広報については、市報への掲載やチラシの掲示、LINEでの発信といった従来どおりのやり方に加えて、SNSを積極的に活用することに挑戦してみた。そこで今年になって急激にホームページやブログの閲覧数が伸びている小金井市まちおこし協会に協力を依頼し、公式YouTube動画からご周知いただいた。結果、参加者34名のうち45%の参加者が40代から60代の方であったこの若い層の参加のきっかけがSNSだったかの分析はできていないが、これだけ多くの若い層がきた包括の講座に参加してくれたのは初めてのことで、包括の認知度を多世代に広げることに多少は役立ったと感じている。

またこの講座に参加した防災士の方やボランティアとして地域防災に取り組んでいる方々に声かけをして、来月中旬に2層協議体を開催することにした。そこで今回の講座のアンケート結果を共有し、アンケートに寄せられた意見を踏まえて、次回以降、講座を一緒につく

っていきながら、お互いの関心・取組について共有し、連携して新たな取組の可能性を探る場所にもしたいと考えている。

今年度はこの後、11月、3月の2回桜町自治会との講座を予定しているほか、11月のわくわく農園感謝祭では市地域安全課と一緒に防災ミニ講座開催を予定している。

また今週にはヨハネ会で福祉避難所開設を視野に入れた防災訓練を実施するのだが、そこに今回の防災講座共催をきっかけに、桜町自主防災会からもご参加いただき、逆に来月に桜町自主防災会で開催するHUG（避難所運営ゲーム）にヨハネ会の防災委員から3名ほど参加させていただくといった交流も始めることになった。

防災講座はいろいろなところで開催されており、お金のかかった立派な講座もたくさんあるが、きた包括では共助のための地域づくりをテーマに、防災講座開催が地域づくりにも役立つということで引き続き取り組んでいきたい。

以上で報告とさせていただきます。

（高良委員長）

何か質問等はあるか。ほかの包括の方々も聞きたいことがあれば。

よろしいか。

すばらしい取組だと思う。まず人材不足に関してはどこも同じように感じていることだと思うので、多分この協議体の中でも全体の課題として、検討しなければいけない非常に大きな課題だと思う。そういう中で防災に関しては全ての世代において興味を持つテーマということでやってこられたが、SNSを利用して新たなことをすることによって、新たな年代の方たちも参加してきたことなど、実際に成果として見えているのは非常に大きなことで、人材不足のところでもウェブ等を活用してほしいという意見もあったということだが、やはり市のスマホの講座も含めて考えていくと、どんどんSNS等を活用していくことも不可欠になってくることはより一段と感ぜられる。

またスマホやウェブ等といったICTの活用についての話題や、検討もこちらの協議体で進めていく必要があると思う。

それでは、続いてみなみ包括の河合委員からお願いしたい。

（河合委員）

通いの場支援について、天神前集会所で行っている天神ポッチャの会は月1回ポッチャをする会になる。こちらは既存のサロンで、もう少し集まる機会がほしいというニーズがあり、昨年度より継続支援を行っている。今年の4月から自主グループとして活動を開始して、この間継続して伴走支援を行っている。毎回10名前後の参加があり、準備や片づけを全て参加者全員で行ってる。今後は自主的な住民の方にお任せするような感じで伴走支援をしていく予定。

もう一か所、貫井住宅さくら体操の会について、毎週金曜日の活動がこの暑い夏も休むことなく続いている。毎回10名くらいの参加者がいる会で先日訪問したら、男性の参加者も1人いた。月1回程度イベントの周知などで顔出しして、つながりを持つようにしている。

サロン連絡会について。みなみ圏域の4つのサロンからなるサロン連絡会には、今年の3月、4月で第1層のコーディネーターと一緒に各サロンを訪問し、活動の実態把握を行っている。課題については参加者の高齢化や担い手不足といったところがある。あとは地域への活動のPR力不足で各サロンから課題が上がっており、その検討課題について生活支援コーディネーターの連絡会等でも共有しており、今回お元気サミットでサロン連絡会としてご参加いただくことになった。このお元気サミットを機に、また活動を広げていき、参加者を増やしていきたいというのが各サロンの方々の気持ちである。

このサロン連絡会は4つのサロン限定で、地域のリハビリテーション活動事業を活用した

ノルディックウォーキング合同研修を昨年同様実施している。大変人気で去年は20人くらいの参加があり、今年ももう既に割と盛況に予約いただいている。

あとは以前から男性の社会参加・活動の課題検討についてサロン連絡会で話し合いを行っているところだが、今はらくらくサロンやおしゃべりサロンの取組についての情報共有にとどまっている。具体的にはおしゃべりサロンの男性参加者には会場設営などの役割を担ってもらい参加いただいている状況で、らくらくサロンは男女比が半々になっているが、特に男性の中に町歩き企画が得意な方がいらして、その男性に企画する分野を担っていただき、それぞれの特技を生かした活動をしている。

そのほかの通いの場の実態把握等について、応援マップの作成に伴って新しい団体に取材などを行っている。今年度は7団体に声かけさせていただき、実際取材が進んでいる。この応援マップ・応援ブック作成のための訪問取材ではその後のつながりもできており、実際にサロン等で講師がいないためにプログラムに困っているという相談をいただき、地域のリハビリテーション活動のリハ職の講師派遣について包括職員と一緒にお願いに行ったというようなつながりを持った。

次に継続的な事業として、金銭管理啓発事業について昨年度に引き続き老人クラブぬくい会西からの依頼を受けて、6月28日に会員の方の誕生日会で実際に朗読劇「小金井ブギウギ」の啓発を実施し、24名の参加者がいた。当日はコーディネーターがナレーションと朗読劇の後の啓発・意見交換の進行を担当し、そのほか台本、実際の役をぬくい会の会員の方が演じていただくなど、自主的な啓発活動への可能性が垣間見えたところである。

次に、自治会・町会への活動について、貫井住宅は特に高齢化が進んでいる団地で隔月1回認知症カフェを開催しているが、今はJ K K住まいるアシスタントと包括で協力してカフェを運営している。始まる前からゆくゆくは住民の方主催で実施いただくことを、J K Kの担当者や、自治会、包括の3者とも共有をしている。やはり担い手不足や、自治会の方々も既存の役員の仕事等で忙しいようで、まだまだ住民主催での実施は難しいという声をいただいている。ただ、定期的に話し合いの場を持っており、どうしたら住民主体でやっていけるかについてみんなで話をしている。次回のカフェの開催のときも、実際何をしたいかを参加者から集めようという話が進んでいる。

最後に、広報や周知活動について。みなみ包括の公式LINEについて週に2回ほどのペースで配信している。またイベントの周知だけではなく、最近台風や地震など災害の備え等について配信をしている。また、包括ニュースについて今までは隔月の発行だったが、郵送料の値上がりなどで、今年の10月以降3か月に一度の発行とした。ただ、引き続きみなみ包括の周知につなげる方法として活用していく。

あとは道草市を4月27日に実施しており、みまもりあいアプリの模擬検索訓練実施や、天候不良だったので規模を縮小してスマホ相談会や、軽スポーツの体験会を行った。道草市の取組においてはぬくい会の協力をいただき、地域の小金井ICTサポーターズという、スマホやパソコンの相談に対応してくれるグループがあり、そちらと関係ができて金銭管理の啓発講座や、応援マップの新規掲載団体ということにつながりを持つことができた。次回は10月26日に開催予定となっている。

あとは包括ポストカードによる周知について、毎年9月頃に町会や自治会で行っている敬老記念品配付の際にみなみ包括のポストカードを入れてもらいたいとお願いしている。今年も去年に引き続き積極的に協力いただいております、今年は1,750枚ほどの配付ができた。

最後に、光明第二保育園との連携についてはフラワーアレンジメント教室を地域住民の方を対象に開催し、教室開催の周知や実施後の参加報告についてLINEを活用していた。今後、今週のことだが土曜日に保育園の光の子フェスタというイベントがあり、そちらにも参

加して、多世代に向けた包括の周知をする予定。ちょうど今、子育てしている方にかかわることで、その方のお父さんお母さんやおじいちゃんおばあちゃんにつながっていくと思っているので、多世代に向けた周知活動も行っていく。以上となる。

(高良委員長)

何か質問等はあるか。

包括ニュースを送るに際して、やはり郵便料金の値上げは痛い。

みなみ包括でも話にあがったが、担い手不足は多分どこにでもあることで、現在検討している男性の社会参加の促進の働きかけをすると同時に、今度活動の担い手をどう増やしていくかも併せて考えていかないといけない。また、活動の種類が多岐に渡っていて、初めての方は社会参加がしやすいなところもあると思うが、実際にその活動自体がしぼんでいってしまうこともあり得るので、両方合わせて相互にうまく活性化するように考えていく必要がある。そういった中で7つの団体が新たに出来ていたり、新たに発見できたのはいい方向性だと思った。

それでは、続いてひがし包括、金子委員からお願いしたい。

(金子委員)

令和6年4月から7月までの活動報告をする。

本年は昨年から継続支援しているさくら体操自主活動における2層協議体の開催や、助成事業の活用等の対応をした。2年目の活動で今後の運営について参加者を含めて検討し、月2回の開催から毎週の開催に変更した。活動運営費は会費制の仕組みを継続することとし、またリーダーの負担軽減も目指し、核となるリーダーの増員も検討した。結果的に協力いただけるリーダーを発掘できたので体制の強化となった。このさくら体操自主活動支援については、さくら体操の担当者とも連携しており、おのおのが役割を担って運営支援に携わっている。引き続き関係機関との連携も図っていききたい。

続いて、情報発信については本年も継続してひがし包括版情報誌を作成し、自治会・町会、民生委員、医療機関に向けて配付した。回覧板や敬老会での啓発対応について返信はがきによるアンケートを行い、自治会・町会との顔の見える関係づくりも継続して行っている。

また本年は町会から包括支援センターについての講義の依頼をいただき、役員の代替わりや輪番制など繰り返し活動周知を行うことになるが、コロナ禍で関係性が希薄化してしまっていたので、改めて町会・自治会、地域住民との関係構築を目指していきたいと思う。

そのほか、居場所についての問合せなどがあり、マッチングを行う相談も増加してきたように思われる。また地域清掃美化活動を行っている団体からは、SNSを活用し、活動の周知・広告を行ったところ、お子さんを含めた家族が当日参加されたという報告もあった。活動内容や周知方法、運営も多様化してきているので、こちらも柔軟かつ時世に合った情報収集を行って対応していきたい。以上になる。

(高良委員長)

何か質問等はあるか。

リーダーの方を発掘できたとはすごいと思う。

(金子委員)

一本釣りをした。

(高良委員長)

どなたかやりませんかと言っても、なかなか自分から手を挙げてくれる方はいない。この方ならという方にしっかりアセスメントをして、活動の回数も増えているのは素晴らしいことだと思う。

実施したアンケートの結果で何か特徴的なものはあったか。

(金子委員)

町会・自治会の活動のコロナ後の再開については、まだあまり活動再開できていないという話だったので、町会・自治会のタイミングに合わせて声がけをいただければと考えている。

(高良委員長)

まだ活動の再開に至っていないのか。

(金子委員)

集まって集合体でのイベントという形を個別に訪問しての形に変えて継続しているようなので、もう少しイベントのような形で活動を再開してもらえたら、こちらも訪問しやすい。

(高良委員長)

本当にそう思う。

村越委員、町会・自治会の活動はまだそんな感じなのか。

(村越委員)

うちの町会も人数もだんだん減っているし、あまり活動的という感じではない。活動自体もコロナ以前から多いほうではなかったが、コロナ後は全くそういうものはなくなってしまい、今、うちは特に何も行っていないので町会費も集めていない。今までの余っている会費が30万円くらいだが、それである程度の募金とかをまとめてできているので、それがなくなりそうになったらまた集めれば良いと思って当分集めない。それは私が決めたのだが、そうしている。

(高良委員長)

コロナの影響がものすごく大きいというのはよく分かったが、それに加えて元に戻していくというのはなかなか難しいと思う。

では、続いてにし包括の久野委員からお願いしたい。

(久野委員)

今年度はまずゴールデンウィーク明けにスマホの相談会の需要がどれくらいあるのかを実体験したいと思い、本町住宅のサロンで住民の方に直接聞いてみた。そうしたら、確かにスマホを持っていない方もいるが、持っても写真の撮り方や保存の仕方が分からないので聞けたらいいという声があった。特に女性陣の人たちは大抵持っているといった声を聞いて、ではやってみようということになり、そのときたまたま社協のボランティアセンターから紹介のあった、病気療養中の20代の男性で、そろそろ職場に復帰したい方で、ちょっと自信を取り戻せたらいいと思っているITにたけた方がいるという情報があった。その方を講師に招き本町サロンでちょこっと相談会をやってみたところ、ふだんの参加者よりも若干人数が多く来ていただき、相談されている様子が、孫とおばあちゃまのような感じですごく広がっていったのでやってよかったと思った。その20代の方には別のサロンの松風会というさくら体操を月に2回実施しているところでも相談会の講師をやってもらった。さくら体操を行った後にいつものレクリエーションをやりたい人はそこに留まってレクをやり、スマホについて聞きたい人はにし包括に来てもらって、スマホを覚えてもらうことにした。さくら体操には1回も来たことのない男性の方がスマホの相談会にだけ来たので、やはり需要としてはあるのだなと思った。

またちょっと経って、地域福祉コーディネーターからの紹介で、さっきの方とは別のひきこもりの経験をされた若い男性が社会参加を始めてみたいという情報があった。もう一度同じようにやってみようと思い、今度は恒春会というサロンでさくら体操を実施した後に行った。結局2週にわたり実施したが、参加者の方たちが聞きたいと行列ができてしまった。そ

れを見かねた別の住民の方がそれくらいなら分かると言ってスマホを教えてくれたなど、住民同士で教え合うような場面があった。その場でグループLINEをつなげて、サロン運営に役立てたという場面もあったので、やはり需要はすごく高いと実感した。そのため今後は市で養成したサポーターの方にこのようなサロンに出向いてもらい、サロンだからこそ教わりたいという方が結構いたので、そういった支援をやっていきたいと思っている。

あともう一点、にし圏域では貫井北町5丁目というほとんど国分寺市に近い地域があるのだが、そこは本当にサロン活動の場がほとんどなく、サロンが少ないという課題があった。その課題について住民の方からも聞こえてくるようになって、今、住民の方とともにサロンの新規立ち上げを始めている。サロンでやる内容についてはもう少し練ってはいく予定だが、そのサロンの集客方法として無難なさくら体操からやっていこうと話しており、2層生活支援コーディネーターだけではなくさくら体操の担当者とも協同して立ち上げ支援を始めている。報告は以上になる。

(高良委員長)

何か質問等はあるか。

やはりスマホのことは聞きたい方が多い。それは明らかなニーズなので対応していくのはいいことだし、それによってつながりができるのはいいことだと思う。若い世代の方も一緒にやれるのはとてもいいことだと思う。社会福祉協議会の藤原委員からその点について補足があればお願いしたい。

(藤原委員)

こちらで関わっている人が役に立ったということで、私たちも大変うれしく思う。これからもよろしくお願いしたい。

(高良委員長)

あと、さくら体操等を含めサロンが少ない地区の立ち上げをしているのも、地区の大きな地域課題に対しての対応ができていると思う。

この件で濱名委員に伺いたい。サロンを立ち上げるときに何か注意すべき点等があれば教えてほしい。

(濱名委員)

私は立ち上がっているところに入ったのでちょっと分からないが、今、自分がやっているサロンでは、後からリーダーをやってくれる方がいなくて、現在2か所でさくら体操を実施している。そのうちの1か所は市の管轄でリーダーが5名いるが、全然増えてこない状況がある。リーダーが5名いてもその中には暑い時期行けない方がいたりするので、結構5名全員で活動できることも少ない。また、コロナ後はレクリエーションを一切行っていなかったのもあって、後からリーダーになった方はレクリエーションを一切やらないタイプだったり、運営自体が難しそうなお方だったり、以前のようにはできなくなったように感じる。

もう一か所は、自分以外に4人のリーダーがいたがみな高齢で、みんな辞めてしまったので、今、私がリーダー1人で実施している。通ってきている若干元気な方にリーダーをどうですかと聞いても、自分ではできないとの回答ばかりでなかなか継続が難しい。月に2回実施していて、もう少し回を増やしたいと思いつつも、1人ではそれを行うのは難しい状況である。また自分自身の性格的に色々な人にやりなさいというのは嫌いで、喜んでやっていただけのならばいいが、負担に感じながらやっていただくのは続かないと思う。なので社会参加・地域活動してほしいと思うが、やれる範囲でやっていただきたいと考えている。一緒にやりませんかと声はかけるものの、その方のご事情があるのでそれ以上は踏み込めないところが現状である。

男性の参加者もいたが、残念ながら亡くなってしまった。結構元気だと思ったら急に亡く

なってしまって、1人でリーダーをやっているさくら体操のサロンには男性参加者がいなくなりました。

(高良委員長)

やはりこういう活動を継続するのはすごく大変なことだと思うので、そういう中では新たに始めるときも、ちょっと躊躇される方も多くいると思う。今までの話合いの中でもやはり複数で話合いしながら、分担し合いながらできる範囲で体制を整えるのが大切だと思うので、そういったところを頭に置きながら、住民の方々とぜひ話をしながら進めていただきたい。

それでは、これで報告事項を終わりにしたいが、全体を通して何か補足や質問等があればお願いしたい。

(2) 検討事項

高齢者の社会参加促進に向けた取り組みについて

(高良委員長)

では、検討事項に移っていききたい。

この間高齢男性の方の社会参加について、高齢男性の方にヒアリングを実施し、サロン連絡会で色々話合いを行った。また前回第1回の生活支援事業協議体では、高齢男性の方3名に直接こちらにお越しいただいてお話しを伺ったところであるが、そういった中でやはり男性の方はどちらかというところと目的が明確で、役割があるほうが入りやすいのではないかという意見や、あとメガロスの話が出たがスポーツ系の活動や、教養系の活動に興味を示す方が多いという話が出たと思う。

また応援ブックについても非常にいいものだと言っていたが、包括の方々からの話では応援ブックがあるだけではなかなか自分から積極的に活動に参加しようという形にはならず、その中から参加につなげる何らかの支援やつなぐ必要性があるという話も出たと思う。

そういった中でこの後、より具体的にどういう対応をしていけばいいのかについて検討していきたいと思う。それでは資料4について事務局から内容の説明をいただきたい。

(事務局)

資料4について説明し、社会参加をもっと広い視野で捉えたときに、地域に多様な通いの場があり、高齢者にとっての選択肢を広げることが必要かなと考える。この社会参加について広い視野でとらえることで無関心層も含めたより多くの高齢者の社会参加につなげることが期待できると考える。

また選択肢が多岐にわたる中で、趣味活動、就労、ボランティア、今の自分に合った活動を見つけられるようなフローチャートのようなものがあれば助かるのではないかと考えた。

そんな中ちょうど杉並区で楽しそうなフローチャートを作っていることが分かり、本日A3用紙を半分に折った地域デビューガイドを配布している。内容としては活動希望チャートで「はい」「いいえ」で答えながら進んでいくと、自分がどういうタイプに当てはまり、どのような活動が合っているのか探せるものになる。小金井市でもこういった診断チャートのようなものがあれば、何をしたらいいかわからない、何ができるのだろうか迷っている元気な退職後の方たちの手助けになるのではないかと考えた。小金井版の地域デビュー診断シート、もしくは地域デビューガイドのようなものの作成ができればいいと考える。本日はこれについて検討できればと考えている。

(高良委員長)

今の説明いただいた中で、まずは質問等があれをお願いしたい。

確かに色々な社会資源が地域にいっぱいある。その中で自分がどういうことをやりたいかあまりよく分からないし、地域にどんなものがあり、その中でどれを選んだらいいのか迷うことは非常に多くある。これは就活のようだなと思って話を聞いていた。今、学生でも無料のキャリアカウンセリングの方やキャリアコーディネーターが1人つくような時代になっている。人が不足している時代なので、その方が自分の興味のある情報を伝えると、それに合わせた情報を全部送ってきてくれるようだ。

この事業でそんなものができれば一番いいが、そんなことはもちろんできないので、せめていろいろな情報の中から自分が選んだ条件で、興味があるものを見つけられるのなら、確かに実際の活動への道筋になっていくのだろうと思うがいかがか。

その方法がこういったチャートなのか、それとも別の方法なのか、多分理想的には先ほどの話などから、スマホとかウェブとか色々なものが出てきたが、スマホで答えていき、最終的にこれがあなたに合ったものと情報が出てくるものをつくると一番いいと思うが、そんな財源はないと思う。そのようなシステムを構築するには予算的に厳しいと思うので、そういったところも含めてどういうやり方がいいのか、御意見なり御感想などあれば伺いたい。

また、この資料では杉並区は社会福祉協議会が中心になって作っているようだが、社会福祉協議会でこういったものをこれまでに作ったことがあるとか、今後に作成する予定が何かあれば教えていただきたい。

(藤原委員)

私の知る限り、特にこういうものはない。個人個人が窓口に来て、例えばボランティア活動の相談に来た場合には、職員がどんなボランティア活動をしたいのか、特技は何かというようなことを聞きいて、その方に合った情報を探して提供する形で話を進めていると思う。

(高良委員長)

通常はそのような形で対応していると思う。特に包括の方々もそういう形で対応していると思うが、ますます高齢になられる方の数が増えて、包括の業務も非常に圧迫されている状況の中、少しでも早めに本人、プレシニアの方々を含め、早め早めに意識を持っていただき自分たちで自分はどうなのかと探してもらえようような状況をつくっていくのも必要なことだと思う。それに加えて相談に来る方もいるし、そのときには一緒に相談に乗っていただく必要も出てくると思う。また、これをやっていると小金井市にはいろいろな活動があると上げていくためにいろいろな部署が絡んでくる。市の中だけでもいろいろな担当課が全部絡んでくると思うが、市としてはどのような形でやろうと考えているのか教えていただきたい。

(高齢福祉担当課長)

関係部署等との課題共有の話をしていただく。

先ほどの説明にあったように、市、行政だけではなくて、民間、スポーツクラブとか様々な活動がある。そういった意味で、説明にあった高齢者の方の社会参加の促進に係る現状についての課題を関係部署で共有する場を設けていく必要があると思う。冒頭委員長から話をいただいた前回協議会で男性の社会参加について3人の方にお話を伺って、ポイントは3つあると思っており、1点目がシニア向けというので社会参加のきっかけづくり。2点目が活動を整理してお示しすること、明確化という話があった。3点目がニーズをマッチングすること。この3つが大事だと思っている。そういった意味では現在いろいろな組織で行われている社会参加、地域デビューの取組を提供することは、これから社会参加する高齢者の方にとっても、そういった社会参加の取組を提供する我々にとっても、お互い有効な取組である

と考えている。今後課題共有の場が設けられた際には、多分色々な外部の活用方法とか、御案内の仕方とか、あらたな課題が出てくると思うので、この協議体の場でも適宜フィードバックして、共有させていただきたいと考える。

(高良委員長)

例えば今回御提案いただいているフローチャートのようなものを作ることになった場合には、ほかの課も関連するような様々な社会資源もここに示すことになると思うが、そういった示し方に関しては、検討する部分に関してはまだ今のところ問題ないという理解でよろしいか。

(高齢福祉担当課長)

まず多分今、それぞれの部署でそういった社会参加、活動の御案内をしていると思うので、それと今回そういった形の包括的な御案内の仕方というところで少し整理していく必要があると思う。

(高良委員長)

その場合に例えば第1層協議体でこういうものをつくろうと思っているがみたいな案出しをして、そして他の部署とすり合わせする準備をすることは問題ないのか。

(高齢福祉担当課長)

そこは意見を共有させていただき、課題やすり合わせの準備については問題ないと思うが、そこを1回ごとに共有して話し合うということはしていきたいと考える。

(高良委員長)

こちらとしては案として出して、あとは市の中で共有していきながら検討していける状況だと分かった。では、どのような方法で示していけばいいのか、シニアやプレシニアの方々に提示する方法論としてどのような何か御意見があったらお願いしたい。

チャートはよくあるパターンで分かりやすい気がする。高齢の方にとっても、割とすぐにやってみようかとなる気はするが、鈴木委員はこういうものを見られてどう思うか。

(鈴木委員)

ボランティア講座やいろいろな講座があるが、これらの指導者の方は皆若いのか。例えばひとり暮らし高齢者交流会・会食会があるのだが、私はこれに参加していて、入ったときは若かったのだが、今はみんなボランティアする側が高齢者になった。参加者は大変な思いをしながらやっているの、他の活動の方はどうなのかなと思って、それもちょっと心配している。やはり若い方を入れていかなければいけないと思う。

また、子供とかかわりながら参加できるものにするといいと思っていて、例えば駄菓子などを使って高齢者と子供たちが交流することをどこかでやっていた。こういうものもいいなと思っていたが、若い人を入れていかないと今後に続かないと思う。

(高良委員長)

どのような社会参加の場でも、別に高齢者限定ということではないと思う。ある意味年齢に関係なく、やりたい方がそこに集まるのが一番いいので、そのためにもプレのシニアの方に早い段階からこういう状況をつくっていき、かつ例えばチャートなどを見ても、別にその通りに高齢者が参加しなければいけないわけではない。普通の住民の方がこれを使っても全然いいと思うので、そういうことを進めていく中で、若い世代の方にももしかすると興味があるということも活動に入ってくるかもしれない。あとは活動をどこまで限定していくのかということにも影響があって、例えばひとり暮らし高齢者交流会と書くと、やはりひとり暮らしの高齢者しか来ない。これをもっと幅広くするにはこの名称から変えていかなければいけない。でも、一方で名称を変えるとひとり暮らし高齢者というピンポイントのニーズに対応できなくなる可能性もあるという難しさがあるので、そういった活動の対象範囲や、どのよ

うな活動にしていくのかなどのお話合いが併せて必要になってくる。

このチャートなどのやり方や、このような形で早めにプレシニアの方やシニアの方も含めて、地域にいろいろな活動があることを知ってもらい、自分もやりたいなとちょっと思ったり、もしくはこれを見ることによって、自分の興味・関心に気づいたりしながら活動につなげていくためにどんなやり方がいいのか考えていきたいが。

社会福祉協議会の藤原委員にご意見を伺いたい。

(藤原委員)

社会福祉協議会というよりは、私と同世代くらいの近所の方々がどういう感じで地域に出ていくかを考えるのだが、男性はよく分からないが、女性の場合はやはりロコミというか、友人から誘われる感じで入っていく人が多いように思う。

フローチャートも、例えば市のホームページで、定年退職をした方々が何かすることはなにかと検索したときに、こんな活動があるとぱっと出てくると、色々あることが分かって、参加しやすいと思う。

(高良委員長)

確かに、これだけまとめていただいたが、これだけの情報をプレの高齢者の方がネットで市のホームページの中から全部調べようとするのはかなりの労力だと思う。そう考えたときに、例えば退職前とか、地域デビューしたい人のようなキーワードで検索したときに、全部が出てきて、希望の講座やボランティア情報をクリックすると、それぞれのサイトが見られるようにするだけでも、さらにこれを見てみようかという気になると思う。

ほかにいかがか。出川委員。

(出川委員)

このパンフレットの中の「地域デビューの先輩に聞きました」という部分で、私がよく出会うのは一番下のコメントのような、介護度が落ち着きお手伝いできたという方だ。確かに奥様とか御夫婦でどちらかの介護を終了した方やお子さん世代とかに、それ以上の御縁がなくなってしまう、すごく気になっている。このままだとその方の介護のお手伝いにつながるのではないかなというケースがよくあるので、きっかけとして何かこういう冊子とかが御興味があったら何かご案内できる1つになるのではないかなと思う。高齢者向けのパンフレットはあるけれども、年齢がまだそこまで達していない人への御案内が私たちも弱いので、1つのきっかけづくりとして活用できるかなと感じる。

(高良委員長)

確かにそうだ。介護で手いっぱいだった方が、介護が必要でなくなった後はむしろ虚脱感の状態になる方も非常に多くいる。そんな中で何か案内できるものがあると、ちょっと見てみようという感じになると思う。ほかにいかがか。

まずはチャートで作ってはいかがか。チャートよりもいい案は出てこない気がする。ネットなら幾らでもできそうだが。何かのキーワードを入れて、自分の条件を入力していき求めている情報が出てくるのが一番楽だと思う。それができるなら一番いい気がするが、その基になるのがこれだと思うので、まずこれを作っていきそうといったことも追々検討できればという気がする。

この杉並区の資料を参考にしながらになるのと思うが、この内容についてはいかがか。「これまでの知識や経験を活かしたい」「まだまだ働きたい」「地域で役立ちたい／つながりたい」、先ほど事務局で要素を上げていただいた活動の種類は多種多様ということで「もう少し働きたい」とか「趣味を見つけたい」と分けているが、大体網羅されている感じがする。

「友達を作りたい」がないのかな。今回高齢男性のことを話しているが、結局これをつく

る対象は別に高齢男性に限らず、女性も含めての話になると思うが、そういったときに地域でどんどん知り合いも減って行って、自分も友達というか、知り合い、ちょっとお茶飲みができるような誰かしらをつくりたいというのは大きな1つのニーズである気がする。

「地域のことを知りたい」というニーズはあるか。どうだろう、ここでは「地域で役立ちたい」になっている。

(濱名委員)

「地域を知りたい」というニーズはあると思う。一緒にサブスタッフをやっている方が引っ越してまだ何年もたっていない方で、こっちに来てよく分からないけれども、何かしようと思いボランティア登録や、介護予防につながる講座を受けたと言っていた。ある程度の年になって引っ越してきた方や、お子さんがもう卒業していなくなって手が離れたので何かしようと思ったとか、都内のほうの自宅を売り払いこちらに引っ越してきたが、地域のことがよく分からないという方などにある程度のニーズがあると思う。

(高良委員長)

確かにそうだ。特に男性の方でいうと、仕事をずっとして、ほとんど地域のことは分からないと前回お話しされていたので、そう考えると自分が住んでいる場所について知りたいというニーズは確かにあると思う。

(濱名委員)

もう一つ男性・女性に限らず、社会参加したいと漠然と思っている方の中には、若いときは忙しかったのでできなかったという方が多いと思うが、若いうちにそういうことに興味がない人は年を取っても興味がない気がする。だから自分たちが若くて誰の助けも要らないというときも、どのような年齢になっても助け合いは要りますよ、地域は大事ですよということをもっと浸透させていった方がいいと思う。発信が介護福祉課の高齢者の部門だからということではなくて、全体的にすごく必要なことで災害のときなんかもそう思う。

普段何もないときなら隣近所なんか知らなくてもいいというその感覚を、もっと地元を知りましょうという何かそういうものがあつたほうがいいと思う。

(高良委員長)

確かにそうないのかもしれない、小金井市民としての助け合いというか、自分が生活していく上でいろいろ相互に助け合っていくのだというような、それこそ地域共生社会を目指しての活動になると思う。そういう啓発的な活動はあらゆる部署にちょっとずつ絡んできている気がするが、市では重層はやっているか。

(事務局)

重層はこれからで、今、検討しているところになる。

(高良委員長)

では、それがまた機能すると、どちらかという地域共生社会に向けての活動を主に先導していくのはそちらの課なのか。

(事務局)

基本的には地域福祉課と社会福祉協議会で協力して行っていく予定。地域づくり事業や、サポート支援事業を介護福祉課の事業として新規で考えているので、若干こちらの事業と重なる点は出てくると思う。

(高良委員長)

今、お話いただいたことは主に地域福祉課等で検討していただければと思う。ただ非常に重要な点だと思うので、こちらとしてもそういった意識を早い段階から持っていただきたいということは、ぜひ頭に置きながら進めていくべきだと思う。

ほかに松村委員いかがですか。

(松村委員)

生活支援連絡会でも少し意見交換をさせていただいたが、これは定年後の方に向けにつくるのはもう誤りであって、定年を意識し始めた方でなければ結局はご自身で使うことができない。包括が日頃関わっている層に渡した場合、応援ブック同様、私たちが一から一緒に「はい」「いいえ」とやっていくことになると思う。また、これから考えないといけないことは、誰がどういう機会を使って誰に届けるのかということ。最初にも報告したが、とにかく紙媒体は包括の存在を知っている人にしか届けられないところがある。周知を包括に委ねられても、私たちは包括と既につながっている高齢者や、地域の方々にはしか届けることができないという問題があることを理解いただきたい。チャート自体はつくる価値はあると思うが、前回の協議体にご参加いただいた高齢男性から頂いたご意見では、世間に知られているビッグネームの講演とセットでイベントを行うのはいかがかとの提案があった。ご紹介の杉並区の事例でも、タレントとまではいかないが東京新聞の清水孝幸氏、この方は東京新聞の政治部部長時代に地域デビューして、それをずっと連載されて本にもまとめ、色々なところで紹介されている方であるが、まずこの方の講演があって、このチャートを配布し、周知したりPRしたりするきっかけになっていると考える、

だからチャートだけ作って包括に渡されても、これまでどおりのことしかできず、これまでどおりの層にしか渡らないという課題をどうするのか。

お元気サミットの介護予防・生活支援の時間帯で「レッツ地域デビュー」というイベントを行うことになり、9つの団体に参加の協力依頼をしているところだが、9団体のうちお一方しかお元気サミットを知らなかったというショッキングなことがあった。市では十分にチラシを刷って配布いただいていると思うが、残念ながら今回参加の依頼をした9団体のシニアの方々のなかでは、ターゲットバードゴルフの会長だけが、「そういえばコロナ前に1回こういうものに参加したな」とおっしゃっていて、それ以外の団体の方々は「行ったことがない、知らない」という答えであった。それだけ本当に周知するのは難しいことで、掲示、市報に載せる以外の広報の在り方で、特に若い層に向けた周知等を考えていかないといけないと思う。

(高良委員長)

本当におっしゃるように、これは決して包括だけをお願いしてというものではないと思う。できればもっと早い段階のプレシニアの方にぜひ手に持っていただきたいので、そうすると例えば60歳の検診とか無料の眼科検診とか歯科検診と一緒に入れるとか、何かそういうことをして、少しでも手に取ってもらう機会を増やすことも必要だと思う。あとはイベントを行うときに、イベント等の情報の発信も考えながら、次のお元気サミットも含めてどのような形で周知を行い、今まであまり知らなかった方にも、行ってみようと思わせるイベントにしていくかなども考えていかなければいけない。

(松村委員)

追加だが、お元気サミットはどうしても介護福祉課だけの事業になるので、色々な制約があつてここにタレントを呼ぶのが難しいのは重々承知している。ただ、フローチャートをこれから周知していくときに、定年退職後の方だけでは地域活動は回っていかないので、あなたのためにも地域のためにも早くから地域に参加しましょうという情報発信が必要なので、介護福祉課を超えて色々な関係部署から予算を出し合ってもらい、そのうえでイベントをやっていけるように期待している。

(高良委員長)

今回参加いただいたプレシニア・シニアの社会参加講座とか、もう既にほかの課でやっているの、ということは、そこと一緒にやるのが多分一番現実的なのだろうと思う。そ

ういった意味でも先ほどおっしゃっていただいたように、関係部署との連携を含めて話し合いをしていくということなので、今、いっていただいたように、今あるプレシニア・シニアの社会参加講座等をどういうふうによく活用していくのかだと思ふ。例えばフローチャートみたいなものを活用するために、どこまでどのように連携しながら準備していかなければいけないのかを考えていく必要がある。本当はそれこそ小金井市に住んでいる方たち全部に配布したいので、先ほど言ったような60歳とかに送る無料の検診通知等に同封する方法もあるだろうし、もし市だけではなくそれなりの企業等との連携ができるなら、要はある程度の大企業はほとんどのところで退職前の色々な講座を多く実施しているので、事前にリサーチ等をしてみて、どう連携していくかを考えるのも1つありではないかという気がする。また共済組合や健康保険組合とかでも多く実施していると思う。うちの大学でも何かいっぱいあるようで、あまり参加していないのでよく分かっていないが、色々なところでそういう活動している。その活動がそれぞれどこまで成果を生み出しているのかは見えていない状況だが、いいところ取りはしていけると思う。それぞれの活動の中から参考になる部分を持ってきて、市としてどうしていくかを考えていく必要性があると思う。

プレシニア・シニアの社会参加講座は何課で行っているのか。

(菊地原生活支援コーディネーター)

プレシニア・シニアの社会参加講座は介護福祉課で実施している。

(高良委員長)

シニア世代の社会参加講座は。

(菊地原生活支援コーディネーター)

シニア世代の社会参加講座は生涯学習課で実施している。

また追加だが、共済組合のライフプランセミナーが40代50代60代向けで、ちょっと前の年代別の講座があったので参加してみた。丸一日かけて講座を受けるのだが、ほとんどお金の話だった。社会参加を促すという部分はほんの1%あるかないかというレベルの話で、がっくりして帰ってきたというのが正直なところだった。退職後に収入がなくなり、年金の計算はこうで、詳細は個別にこの後相談に乗るといったふうで、こういうものがライフプランセミナーなのかという感じだった。

(高良委員長)

実際に参加いただいたのでよく分かったと思うが、確かに一番大きな関心事はやはりお金だと思ふ。なのでそこから入っていくのだろうと思うが、それは逆に言うと、お金が一番大きな関心事だからなので、それに併せて社会参加のこのような活動をする、これだけの金銭的な問題があったとしても、より豊かな生活ができるというような話につなげていく講座をするのもありだと思ふ。

だからこそそう考えると一段と社会参加に関連する講座の周知をする必要性があると思ふ。

ほかに何か関連して体験したことがあるか、色々な意見があればぜひ共有してほしい。

久野委員はいかがか。

(久野委員)

私はマンションに住んでいるのだが、今、たまたまマンションの理事を2期やっていて、最初はみんな理事になってしまい嫌だったというところがあるが、やってみると皆さん楽しくて2期目やってしまう方もいる。特に男性の方にそういう方がいる。それが地域デビューかというところすごくおこがましいかもしれない。身近なところで参加するものにちょっとした強制力が働いて何気に、義務教育と同じように勉強なんかしたくないと思っても、学校に行かなければならないから行って、そうしたら友達ができて楽しかったみたいな流れになるの

で、地域デビューもありなのだが、ちょっとした強制力が働くと、結果的に地域デビューしていたという感じになる気がする。なのでフローチャートもこれはこれでいいとは思いますが、地域デビューは分からないけれども、デビューするにはどんな活動があるかというものがまず少し見ることができると、きっかけとしてはいいのかなと思う。チャートはチャートでいいと思うが、どちらかという数字が並んでいるものを何か情報提供できるような形が取れると、結果的に地域デビューだったという形に収まるのではないかなと思う。

(高良委員長)

先ほど藤原委員がおっしゃっていたものと同じだと思うのだが、要はどれだけ目につくかだと思う。こんなものがあるんだというのをどうまとめるかで、それをチャートで持ってきて引っ張ってきてというやり方と、あとはとにかくグルーピングしながらこんな感じのものがあると例をいっぱい出すやり方と、その中にいかにもというようなものばかりではなく、おっしゃっていたそれこそマンションの理事とかいう例も入ってきたりして、別にこれが地域デビューの一つになるみたいな、皆さんがすごく敷居高く感じるようなものではないところを伝えるのは1つありだと思う。

ほかに金子委員いかがか。

(金子委員)

連絡会で拝見したときに、正直常に日頃私たちが関わっている高齢の方がこのフローを使うか考えたときには難しいと思った。その上で活用していく方法を考えたときに、やはり社協と連携が必要になってくるだろうと感じた。

他事業にはなるが、今、話を伺ってケアパスも同じように自分でチェックをつけて自分の状態を把握するという紙媒体のもので、あれはどうだったのだろうと、その効果も参考にできそうだなと思った。

若めの年代の方にはちょっと目新しいものにはなってくるかなと思うので、フローをつくる狙いとしては、そういう若い方に向けてつくるのも1つ手だなと思った。ただ松村委員がおっしゃったように、作った暁にはそれなりにお披露目ではないがイベント的なこととタイアップして周知していかないと、また紙が無駄になってしまうのではないかなと思うので、今後の方向性を見据えて検討していったほうがいいと思った。対象はやはり若い方に向けてのものかなと思う。

(高良委員長)

確かにこれを使って自身で「はい」「いいえ」と進めていき、電話しようなんて、そううまくはいかないと思う。そう考えていくと退職前の方や、退職直後の辺りの方が一番対象になる気がするので、例えばイベントをするにしても、その方たちにヒットするようなものは何かと考えたら、結局お金になっていくのではないかという気がする。退職間近になってきたら、もらえる年金はどれくらいなんだ、あとはどうやって生活していこうかというように、多分興味が沸いて行こうとなるだろうから、そこから内容として社会参加・地域活動の大切さについて入れ込んでいくような形にすることがいいと思う。最初から社会参加では、そこまで興味を持つ方がいるかというのと、なかなか難しい気がする。

河合委員いかがか。

(河合委員)

これまでの話を伺って本当にそのとおりだと思う。これから担い手になる方々はパソコン・スマホを使えて当たり前前の世代だと思う。うちの父や母もそうなのだが、当たり前前に教えなくても自分で検索でき、興味があることは検索して、自分でネットのページを探せる人たちになる。ということはもう紙で配るのではなく、ネットも使える人に焦点を当ててつけていく必要がある。本当に委員長がおっしゃったように、ネットの中でチャートを選んで

いって、最終的に紹介するページに飛ぶようなシステムをつくっていかないと、紙では必要な人に届かないことがあることと、あとはすごくいっぱい講座があって、こんなに講座があるのになかなか集客につながらないとか、必要な方に情報が届いていないのは、全部の課がPR不足であるところと、同じようなことをやっているところが現実だと思う。正直私も今後プレシニアになったときに何かやりたいと思っていても、情報が錯綜してはどれに参加すればいいのかわからなくなったときに、まとまっていた方が選びやすいと思う。あとは今後本当に全世代での担い手不足が出てくると思われ、子供支援や、高齢者支援も若者支援も全部みんなで協力してやっていかなければいけない現実があると思うので、市でいろいろな課と協力してこういったものをつくっていくのは市全体としてすごくいいことではないかな、こういう市に住みたいなと思った。

(高良委員長)

そのとおりだと思う。

どうぞ、松村委員。

(松村委員)

今、河合委員がおっしゃったことの中で1つだけ意見が異なることがある。必ずしも色々な課がシニア・プレシニア向けの講座をやってはいけないうわけだと思ってる。十分な連携と情報共有があり、大きなことをやるなど協力することができれば、むしろ窓口は色々あったほうが良いと考える。以前から個人的には「防災講座とか防災訓練とか色々なところで、あちこちやっているな」と思っていたが、先日のきた包括の防災講座アンケートの回答のなかに、40代くらいの若い方からのもので、「忙しくて行きたくても日程が合わない、だからこそ色々なところでやってほしい」という御意見があった。それを拝見し、人によってそれぞれ目につきやすい媒体が違う、外出先もそれぞれで、公民館によく行く人、図書館にしか行かない人もいる。色々なところで情報収集していただけるといいと思う。

あとは委員長のおっしゃったライフプラン、お金に関する話はよいアイデアだと思う。何も大物、スターを呼ばなくても、マネー講座の後にくっつけてもいいと思う。そのほうが地域の行政書士などにも協力していただいて、費用をあまりかけずに何回もやるというやり方もおもしろいなと思った。

(高良委員長)

本当に皆さんのおっしゃっていたとおりで色々な情報を皆さんがこれから取れる世代になっている。シニアの方でもスマホを使おうと興味をお持ちの方がいっぱいいる中で、プレシニアの方は明らかに自分で動かれる方たちだと思う。市民の方にしてみれば何の講座を何課がやっているかなんて関係ないことである。結局自分の興味があるところにリーチして、情報が取れば行こうとする。主体的に動く方たちに対して簡単に適切な情報が取れる状況をつくれれば良いし、一方ではそうではない方もいる。その場合にこのチャートのようなものでどのような活動が向いているのか分かるように手助けをすとか、そういう方法で社会参加をサポートしていく必要があると思うので、市として連携していくのはお任せする。ほかに何かあるか。

色々な御意見をいただきありがたい。大切な部分は何なのかを確認できた議論だったと思う。まずは市として関係機関との課題の共有等も含めて話し合いを進めていくとともに、どのような形が一番いいのかまだよく分からないが一応案としてこういったチャートをつくっていきながら、それをベースにまた議論を進めていきたいと思う。

また、そういったものができると同時に、今度はどのようにして活用していくかの検討を続けていければと思う。

では、全体を通して意見や質問等があればお願いしたい。

(菊地原生活支援コーディネーター)

どんな講座にしても、多分それぞれの課が参加してほしいターゲットを定めて開催していると思う。ただ、自分たちが想定しているターゲット層ではない方が必ず来るので、チャートを作るにあたり考えられることは、想定外のターゲットがヒットするかもしれないというところだけ押さえていただきたい。なぜかという、生涯学習課で実施しているシニア世代の地域参加講座は恐らく定年退職まですぐの方を対象としているのだが、実際には90代の参加者がいた。またプレシニア・シニアのための地域参加講座に関しても、若い世代として55歳から75歳を対象としていたが、80代の参加者もいた。ただ、80代だから参加できないというわけではなく、80代でも地域参加できていない方がいて、これに参加したことをきっかけに地域活動につながった例もあるので、それはそれで参加してもらってよかったと思う。

(高良委員長)

確かにそうだと思う。あくまでもこちらとしての主催側がどう捉えるか。もちろん目的と目標と対象要件等を考えるのは不可欠だが、実際どうなってくるかというのは分からないので、むしろそれを結果として見て評価していきながら、次にどういう活動にしていくのかつなげていく必要がある。ほかにはないか。

3 その他

次回協議体の開催予定

(高良委員長)

それでは、これで第2回の生活支援事業協議体を終わりにしたい、次回の協議体の開催についてお願いしたい。

事務局より次回の協議体について日程と場所等を説明

4 閉会